

■佐伯好郎 言語学者、東洋宗教史家。キリスト者で、景教史研究の国際的権威とみなされた。
さえきよしろう
廃藩置県・・・1871＝ 広島県佐伯郡(廿日市市)で、厳島神社神主職を務めた佐伯氏の流れをくむといわれる佐伯友七とトヨの間に生まれる。

明治6年政変 1873＝ 2歳：

幼少時は「神童」として知られ、

・・・1880＝ 9歳：

明治14年政変 1881＝10歳：

内閣発足・・・1885＝14歳：明治天皇が山陽道巡幸の過程で廿日市に立ち寄った際に氷水の献上役を務めた。

長じて上京し、東京専門学校(早稲田大学)に入学して英文科（法律科説もある）に学び、

帝国憲法発布 1889＝18歳：英国聖公会の東京築地教会で洗礼を受けキリスト教徒となった後、
帝国議会始・・・1890＝19歳：卒業。

郡司千島探検 1893＝22歳：アメリカに渡航し、当時英領であったカナダのトロント大学で言語学を専攻して英語・古典語を習得、
日清戦争始・・・1894＝23歳：日清戦争を契機としてネストリウス派キリスト教(景教)の研究を志すようになり、
日清戦争終・・・1895＝24歳：卒業し、
白馬会・・・1896＝25歳：帰国。母校東京専門学校および和仏法律学校(法政大学)などの英語科に出講後、矢田部良吉に認められ、
八幡製鉄始・・・1897＝26歳：高等師範学校(筑波大学)に招かれ講師となったが、
子規句歌革新 1898＝27歳：
Bushidou・・・1899＝28歳：辞職し、かねてから尊敬していた内村鑑三が校長を務める独立女学校の教頭となるとともに、内村が主筆をしていた東京独立雑誌の社員になったが、ほどなくしてある問題で内村と正面衝突し、

教科書疑獄・・・1902＝31歳：退職、再び東京高師の講師に復帰して同校の附属中学校の英語科主任となる。

日露戦争始・・・1904＝33歳：英語学から中国学への転向を決意、
日露戦争終・・・1905＝34歳：

韓国反日暴動 1907＝36歳：「新舊比較対照日本刑法」。欧州視察に出、
アラビヤ創刊・・・1908＝37歳：帰国。この年の論文「大秦を論ず」で発表した“秦氏＝ユダヤ人景教徒説”は、古代日本の渡来人系有力氏族秦氏の本地(地)京都(太秦)の地名や遺跡などを根拠としながらも、ほとんど語呂合わせ的なものであり、当時の歴史学界ではほとんど相手にされず、現在も否定されているが、
大逆事件判決 1911＝40歳：*景教研究の最初の著作「景教碑文研究」を刊行。比較宗教学者マックス・ミュラーの影響を受けたもので、その景教東伝史研究は、英語の著書も刊行されたことから日本国内のみならず国際的にも高い評価を獲得し、その後長く景教史研究の国際的権威とみなされることになる。

明治天皇没・・・1912＝41歳：
大正政変・・・1913＝42歳：第五高等学校教授、
民本主義・・・1916＝45歳：東京高等工業学校(東京工業大学)で教鞭を執り始める。_「The Nestorian monument in China」。

原敬首相暗殺 1921＝50歳：
水平社結成・・・1922＝51歳：この年からは明治大学法学部で講師として新設の羅馬法講座を担当する。

治安維持法・・・1925＝54歳：_「The Luminous Religion：a study of Nestorian Christianity in China」、
金融恐慌・・・1927＝56歳：「羅馬法綱要」、

満州事変・・・1931＝60歳：東方文化学院東京研究所の研究員となる。北京でシリア語の詩編の碑石を発見、
五一五事件・・・1932＝61歳：_私家版「景教文獻及遺物目録」、

芥川直木賞始 1935＝64歳：_「景教の研究」を刊行。
二二六事件・・・1936＝65歳：_「Old problems concerning the Nestorian monument in China re-examined in the light of newly discovered facts」、
日中戦争始・・・1937＝66歳：_「The Nestorian documents and relics in China」、

大政翼賛会・・・1940＝69歳：東方文化学院研究員を辞職、
日米開戦・・・1941＝70歳：*「支那に於いて近頃発見せられたる景教經典の研究」で、東京帝国大学から文学博士号を授与され、
創価学会検査 1943＝72歳：_それまでの中国キリスト教史研究の集大成といえる「支那基督教の研究」の刊行開始。
年金+総武装 1944＝73歳：_戦災を避けて故郷廿日市町に疎開していたが、
敗戦・・・1945＝74歳：「マルコ・ボウロの“東方見聞録”」、
新憲法施行・・・1947＝76歳：_老齢にも関わらず同町の町長に選ばれる。
原爆投下により灰燼に帰した近隣の広島市の再建について識者としていくつかの助言を行う一方、学者らしからぬ度胸の持ち主で、暴力団員のような若者が脅迫に来た際、逆にその男を辟易させるなどしながら、
*大著「支那基督教の研究」全5巻が完結し、
_「景教文獻及遺物目録」が丸善から刊行され、

三大事件・・・1949＝78歳：
朝鮮戦争始・・・1950＝79歳：
独立回復・・・1951＝80歳：
メーデー事件・・・1952＝81歳：この頃大塚惟重を会長として結成された_「日猶懇話会」に顧問として参加するなど、多彩な活動を展開、
55年体制始・・・1955＝84歳：「中國に於ける景教衰亡の歴史：キリスト教の成立に及ぼしたるローマ法學思想の影響」、
国連加盟・・・1956＝85歳：_この年まで町長の任務を全うした。
なべ底不況・・・1957＝86歳：「ローマ帝國キリスト教保護規定の研究：ローマ法とキリスト教」、
全国総合計画 1962＝91歳：_日本人として3人目の“早稲田大学名誉博士”となって、
大学紛争始・・・1965＝94歳：老衰の上に肺炎を併発し、廿日市の生家にて_没した。

インターネットWikipedia、